

編集後記

法科大学院制度が発足して、早、5年が経過しようとしている。制度自体の設計に関する準備不足から、この5年間は、試行錯誤の連続であり、法科大学院関係者には、そのため多大の負担がかかった。

中京大学法科大学院も、無事5年が経過し、教授も学生も試行錯誤の中で奮闘してきた。また、無事、第三者評価機関による認証評価も終え、一つの大きな区切りを迎えているといえよう。

しかし、社会的には、定員削減問題や合格者数の減少要求という嵐が吹き荒れており、法科大学院号の船旅は厳しさを増している。

そういう中であって、今号も、本誌の刊行に漕ぎ着けたことについて、多くの関係者に感謝の意をここで表したい。

なお、巻頭の小栗論文は、小栗先生のライフワークとも言える残留孤児問題の最後の小片である。小栗先生は、3年間の実務家教授の後、客員教授となって2年間、中京大学法科大学院の一翼を担って頂いた。この5年をもって、直接的な科目担当等は終えられるが、今後も、研究所の法律相談事業等にはお力を貸していただけることになっており、感謝の念に堪えない。

中京大学法科大学院のホームページ

<http://chukyo-u.ac.jp/educate/law-school/>

中京大学のホームページ

<http://chukyo-u.ac.jp/>

CHUKYO LAWYER 第10号 2009年3月27日発行

発行所 中京大学法科大学院法曹養成研究所
〒466-8666 名古屋市昭和区山手通5-31-2 中京大学 アネックス
TEL (052) 835-8326 FAX (052) 835-8342

発行人 所長 村橋 泰志

編集人 副所長 皆川 治廣

印刷 有限会社 真清社
〒460-0007 名古屋市中区新栄1-47-5
TEL (052) 241-8085